

9/19(土)まいど! 倫理号です。今日からエピソードが休める人は
享せです。「今週の倫理」ビジュアルです。本が家族にありがとう
奉を实践中です。伴々好なく小送りがです。...

九月のテーマ
心と形

なぜ形に 表わすのか

享せ運ぶアホ鳥



え・古屋智子

「あ
りがとう」という謝意を形
で伝えるには、どのように
すればよいか、考えてみましょう。

たとえば、男性経営者が奥様に
対する場合、単に「ありがとう」
と発するだけでよいのでしょうか。
だしかに言葉という形ではありま
すが、肝心なのは、思いが相手に
伝わったかどうかです。

「食事がおいしかった」「掃除が行
き届いていて気持ちがいい」「家を
守ってくれるから働ける」といっ
た事柄への感謝は、もう一歩突っ
込んだ形で表わしたいものです。

たとえば毎日、妻の肩を五分間
揉んでやる、腰や足の裏を指圧し
てやる、日に一度、手紙(ラブレ
ター)を書いて渡す、一日一本、
花を買って帰る...などの工夫をす
ることで、思いもさらに伝わって
いくものかもしれません。

「感謝できない」「恩返し心が起
きない」「身近過ぎる故、愛情があ
るのかわからない」といった方が、
両親や配偶者に日に一度、葉書を
出す実践を通して、思いを深めら
れた体験も少なくありません。

次に、「私は〇〇さんを尊敬して
います」といった心の敬意を
形に表わすには、どのように努め
ればよいでしょうか。

それにはまず、相手をよく知り、
よく見て真似ることです。そして、
己の我を捨て去り、対象者に没入
する(一体となる)が如くに頭を
下げることです。

江戸時代の医師で国学者の平田
篤胤(あつたね)が神様を拝む時に
は、如何にもそこにおられると思
わされるような敬虔な姿であった
といえます。そして、第三者(周
圍)にも、その内面が伝わった(波
及した)というのです(丸山敏雄
著『純粹倫理原論』)。

このように形を尊重することは、
生活にけじめをつけることに結び
つきます。目に見えない神仏や祖
先の御霊に、拝礼、挨拶、頭を垂
れるといった行為をとるとき、親
しみがわき、謙虚になり、豊かな
心が涵養されるのです。

墓参という形についても同じこ
とがいえます。倫理研究所会長・
丸山竹秋は、墓参りをきちんと行

なう人の仕事や家庭は比較的うま
くいっていることに触れ、その理
由をこう述べています。

墓を大事にするということは、親
祖先を大切にするということと、同
じことであるからであります。親祖
先を大切にし、そのおかげを思うと
いうことは、自分自身の生命を感謝
し、生命をより充実させることにほ
かなりません。

(丸山竹秋著『ここに倫理がある』)
自分の肉体、精神は、親祖先の
肉体精神、つまり生命が積み重な
ったものにほかならない。だから
墓を大事にする(墓参をする)こ
とは、わが心をひきしめ、自分の
生命の靱帯に油をさすような働き
になるのです。

遠方に墓があるような場合、実
際には、年に一度の墓参りもなか
なか難しいものです。そうした場
合は、親類か、誰か然るべき人に
墓のことを頼んで、その人に玉串
料や線香代、花代をことづけるの
は大変ゆかしいことです。月に一
度は、親祖先との心の交流を形に
表わしていききたいものです。